



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』『あなたの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.3percent-club.com

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 199

サランラップ

産業革命は、250年以上も前にジェームズ・ワットの蒸気機関発明で織機の高速化と生産能力変革から起きた。家内制手工業から工場制機械工業・大量生産への大転換だったが、それから化石燃料から電気へ、電波、飛行機、IT時代へと文明の利器は日々進化を遂げている。ドイツやイギリスがガソリン自動車の製造禁止を打ち出したように、やがて石油を使うエンジンも過去の物語になる。ヨハネス・グーテンベルグが印刷機を発明して、聖職者以外は読めなかった手書きだった聖書が一般にも出回り、情報に大変革が起こったマーティン・ルターの宗教改革は16世紀のこと。では、現代の発明進化とは何か？

国際線機内の仕事に英国人キャビンアテンダント(CA)が「cling-film」と日本人の新人CAに言っているが通じない。「サランラップのことだよ!」と教える。「cling」とは「しがみつく」の意味で、米語では「cling wrap」「plastic wrap」と呼ぶ。高品質の日本製は酸素や水分を通さず食品の鮮度を保ち、臭いを通さないポリ塩化ビニリデン製で薄く軟らかく、くっつきやすい。米国や英国製はポリエチレンやポリ塩化ビニル原材料が多いので硬くて破れやすく、くっつきが悪い。

『サランラップ』は、太平洋戦線で兵士が蚊に刺されない防護幕や銃や弾丸を湿気から守る包装フィルム用途に使われた合成樹脂ポリ塩化ビニリデンを、戦後に、ダウ・ケミカル社のラドウィックとアイアンズの2人が、妻たちとピクニックに出かけた時に、サンドイッチ用のレタスなどを包んでいたことに開発ヒントを得て、妻たちの名前がSarahとAnnだったので「SARA+AN+WRAP(包む)」となったとか。

サランラップは「包む」以外に、多方面で役立っている。災害時の断水では食器にラップを敷いて使えば汚さずに洗う必要がなく衛生的だ。屋外避難生活や遭難緊急時では身体に巻けばかなりの

保温効果もあることは航空会社でも教育する。ケガの応急処置や骨折の固定、ロープに転用、クシャクシャにして身体や食器洗いのタワシ替わり、油性マジックで文字を書いて貼り付ければ伝言板に。排泄物や生ゴミなどの処理と汚染対策など万能である。これはもう緊急用に車にも一個は必ず用意しておくべし! 切り口がわからなくなった時は、コンロの弱火にサランラップの芯をかざすと切り口が浮いてくる。乾いたスポンジでしごくか、濡れた布でこするともっと簡単である。

アメリカの化学製品発明で大きく世の中を変えたものに『ナイロン』もある。女性のストッキング素材は、昔は絹が定番であった。絹糸の生産は富岡製糸場などに代表され、圧倒的に日本の独壇場だった。問題は、絹糸がちょっとした拍子に伝線したら大慌てすることになり、高価でも淑女にとっては必需品であった。そこに貴重品から消耗品へ変革させる大発明が1935年になされた。デュポン社のウォーレス・カロザースが、石炭と水と空気から奇跡の繊維ナイロンを発明する。“鋼鉄よりも強く、クモの糸より細い”をキャッチフレーズに一世を風靡した。大量生産で価格も安くなり、それまで綿花など天然素材しかなかった繊維業界を一変させた。このあたりから絹の産業衰退が始まった。

東洋の小国である日本の絹が世界の女性を独占していることを快く思っていなかった米英は、世紀の大発明に、ここぞとばかり日本に反撃ができるようになった感慨を込めて名前を付けた。お互いの都市である「New York」と「London」をもじって「NY+LON」で『NYLON』!

因みに、絹を中国語で発音すると「ス〜チョ〜」と聞こえるが、これが『東方見聞録』を書いたマルコ・ポーロなどの欧州人には、「シ〜コ〜」に近い音に聞こえて「S I L K」になり、「絹の道・Silk Road」となった。